

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

April, 2011.Vol.2

事務局:おにき矯正歯科クリニック内
〒861-4172 熊本市御幸苗田 1-9-38
TEL 096-334-8211 FAX 096-334-8210
E-Mail yasu1015@hyper.ocn.ne.jp



熊本矯正歯科研究会講演会 (H22. 11. 27 アークホテル熊本)

<http://kumakyouseiken.com/>

※ ホームページが完成しました。熊本矯正歯科研究会で検索してください。

今年度後期の主な活動

○ 第9回～14回常任役員会

毎月一回のペースで常任理事による役員会を行っています。熊本矯正研究会の行事（日程や講演会講師）や会計状況を検討しています。研究会がより発展し、会員の先生方に役立つような会になるように伊東会長を中心に協議しています。

○ 第3回理事会

平成22年9月6日に伊東歯科口腔病院にて、13名の理事が出席し（委任状5名）第3回理事会が行われました。現会員数の状況や去る7月の講演会の会計報告等が行われました。

1) 総務報告：現在の会員数は94名です。

2) 会計報告：会員13名の年会費の未納がある。さる7月に行われた総会の出席者は43名（講演会63名、懇親会51名）で、入金402,000円であった（48名分懇親会会費：384,000円（当日キャンセル3名）、9名分当日講演会参加費：18,000円）。支出は、389,435円であった（懇親会費と室料等：364,435円、受付アルバイト代：2

0,000円、感謝状代：5,000円)。※講師料は年度予算に組み込み済

3) その他の報告：研究会のホームページの作成状況や名誉会員の設置を検討していることについて報告されました。

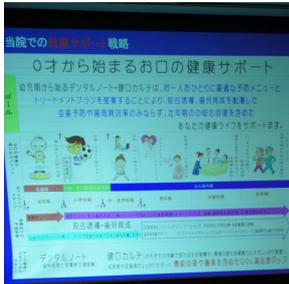
4) 協議事項：木村浩幸副会長より会員間の勉強会や懇談会の設置、小児歯科や口腔外科、補綴（インプラント）、歯周病専門医との連携など委員会を構成して発展させていく展望などが報告されました。

○ 平成22年度 第二回講演会・忘年会

平成22年11月27日にアークホテル熊本で、平成22年度第二回講演会および忘年会が開催されました。

講演会は、外部講師による特別講演と会員による発表があり、出席者も多かったです。忘年会では、今年から会員の先生の医院に勤務されている医療関係者の皆様にも参加していただきました。新たな取り組みにも関わらず、多くのスタッフの方に参加いただき、いつもと違った雰囲気でもとても新鮮な忘年会となりました。今後も継続していきたいと感じました。

会員発表



「健全な歯科医療を提供するための戦略的スタンスー歯科医院(病診)連携もPBの一つとして考える」

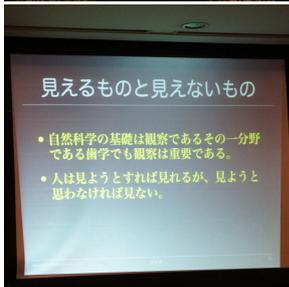
熊本矯正研究会理事、森歯科小児歯科医院(山鹿市) 森 智昌先生

歯科医院を取り巻く厳しい現状における森先生の取り組みを報告してくださいました。特に、ゼロオから始まるお口の健口サポートシステムなどは新鮮味がありました。

本題の地域連携については、同業の同じ地域の歯科医院を地域住民に対する健康、歯科医療への価値観を高める協同事業所との認識で、近隣の地域はひとつの医療モールと考えるとの事でした。一方では、この多難な時代に森先生でも逃げ出しそうになることもあるとのことでした。そのような現状である程度同じような目的をもった集団に身を置くことはおおいに勇気付けられ、また大きな助けになることは疑いのないところであるようです。症例では、森先生の地域連携の考え方をもとに紹介元の歯科医院とともに連携した治療をされておりました。

常任役員会で会員発表を検討したとき、すぐにお引き受けいただき先生の歯科に対する熱意に感動しました。森先生、ありがとうございました。

特別講演



「小児歯科と矯正歯科の境界」

熊本小児歯科懇話会会長、くすのき子供歯科(熊本市) 逢坂 亘彦先生

もともと小児歯科は蔓延する小児の齲蝕に対応できる歯科医師を養成する目的で設立されたが、徐々に小児に発生するあらゆる歯科疾患を対象とするようになった経緯や、近年の齲蝕の減少に伴い小児の咬合育成に力を注ぐ小児歯科医が増加していることを報告された。現在では小児歯科医にとって健全な永久歯列を完成させるための咬合育成は、齲蝕の治療や予防と同じぐらい大切なものになっているとのことでした。このように矯正治療を行う小児歯科医の増加に伴い矯正歯科の境界が曖昧になっている現状も踏まえて、逢坂先生が行っている小児歯科の治療やM.T.M.を紹介しながら小児歯科と矯正歯科との境界について考えを述べられました。

お忙しいところ、快く講演を引き受けていただきました。小児歯科と矯正歯科は多くの部分で重なり合っている分野であり、より連携を深めるべきであると思います。逢坂先生、ありがとうございました。

今回、診・診連携にて加療し、その後連携して経過観察を行っている症例を報告しました。病・診のみならず、診・診間においても連携を行うことにより患者さんを中心とした有効で、健全な歯科医療活動が展開されるのではないかと期待します。紙面の都合で、一部、割愛致しましたので、分かりにくいところがあると思いますが、今後とも、ご指導、ご教示頂ければ幸いです。

症例

患者 25才 女性
 初診 2001年10月2日
 主訴 5 部咀嚼障害
 現病歴 :2週間前、他院にて抜去後、
 欠損部咀嚼障害を主訴にて、紹介により
 口腔インプラント補綴療法を希望し来院。

経過



2001年
10月15日

2003年
8月10日

2010年
6月5日

治療提案

主訴に対して

- 1、PDやBr.などの補綴方法
- 2、過剰歯の移植
- 3、口腔インプラント療法
- 4、歯の移動による空隙の閉鎖

その他

歯肉炎などの歯周組織についての対応、
 今後の口腔衛生維持に関してのご案内
 智歯の存在、今後の影響に関する予測。

患者さんとの価値の共有のみならず

地域での価値の共有(病診・診診)

- 他の診療所・病院と道路を挟んで連携することは、医療のブランド化に繋がる。
 グループ診療、医療モール発想
- 道路は廊下の感覚で、近隣施設を一つ屋根の下の病院・施設と考えた認識のもとに対応する。
- 互いに得意分野を活かし、医科歯科交えて同じ患者を併診することにより、医療・健康に対する価値提案力を協力して高める。

つまり・・・

同意された治療方針

- 1、ブラッシングを中心とした歯周初期治療
- 2、上顎正中部過剰歯抜去
5 抜去
- 3、ダイレクトボンディング・ブラケット装着による歯牙移動
- 4、治療終了後、
口腔内メンテナンス予定



※ 術後のメンテナンスは、紹介元と併診

まとめ

これからの10年・・・

- 患者さんの目線では、ライバルは同業者ではなく、他業種にあり(比較されるサービスやブランド)
- 価値観に対する提案力を組織(グループ)や地域で高める
- 病・診、診・診連携の再考、強化をすることにより、潜在患者の顕在化を行う
- 連携による価値の提案は歯科業界の活性化(反二極化)につながる

忘年会スナップ



今後の予定とお知らせ

- ・ 平成 23 年 7 月 9 日（土）、以下の予定でアークホテル熊本にて平成 23 年度熊本矯正研究会総会・講演会が予定されています。懇親会も予定しておりますので、スタッフの方もお問い合わせの上ぜひご参加ください。

17：00～ 総会

18：00～ 講演会

（演者；九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座歯科矯正学分野 高橋一郎教授）

19：30～ 懇親会

- ・ 会費未納の会員の先生方は早急に納入ください。
- ・ 熊本矯正研究会のホームページが完成しました。先生方の医院のホームページとリンクが可能です。希望される方は執行部までご連絡ください。
- ・ 一般歯科の先生や他の専門医との連携を深め、有意義な会となるよう検討しています。ご意見、ご要望のある先生方はぜひ執行部にご連絡ください。

（編集；広報担当常任理事 河野賢二）